

未来を育む静岡プラン

～ 幸せを実感できる社会をめざして!! ～

1

安心をつくる

安心・安全
自然・環境

2

元気をつくる

健康・福祉
教育

3

未来をつくる

経済・産業
文化・スポーツ

幸

～目次～

[I]	目次	P 1
[II]	前文	P 2
[III]	1. 安心をつくる	P 3 - 4
	(1) 災害に強いまちづくり	
	(2) 環境にやさしいまちづくり	
	(3) 豊かな自然をまもるまちづくり	
[IV]	2. 元気をつくる	P 5 - 6
	(1) 子育てしやすいまちづくり	
	(2) 支え合えるまちづくり	
	(3) 健康をまもるまちづくり	
[V]	3. 未来をつくる	P 7 - 8
	(1) 安心して働けるまちづくり	
	(2) 誰もがどこでも行けるまちづくり	
	(3) 人でにぎわうまちづくり	

静岡市長 田辺信宏様

平成24年11月13日

公明党静岡市議会

代表 片平 博文

公明党 静岡市都市ビジョンⅢ

昨年3月11日に発生した東日本大震災の被害は未だに市民の中に大きな不安を残している。南海トラフ巨大地震が想定される我が市にとって、防災・減災対策は市民の生命・財産を守るため、何よりも優先して取り組まなければならない急務の課題である。また少子高齢化や経済低迷も社会に、様々な行政課題を生み出している。第二次総合計画である「世界に輝く『静岡』の創造」は着実に推進されているが、財源の確保など問題は多く、限られた予算の中でいかに有効的に執行するか、その手腕が問われている。

私たちは政令市静岡市のスタートに合わせ、平成17年に本市の基盤となる政策、公明党静岡市都市ビジョン『いきいき静岡創造プラン』、また平成21年には都市ビジョンⅡとして5つの柱からなる『がんばる静岡!!プラン』を策定しこれに伴う予算要望を行ってきた。

そして政令市移行10周年が目前となる今、市民一人ひとりが、幸せを実感できる社会をめざし、“安心・元気・未来”の3つを柱とする基本方針のもと公明党静岡市都市ビジョンⅢ『未来を育む静岡プラン』を策定した。

1 安心をつくる

本市は、市域の約80%を森林が占め、北に南アルプス、南には駿河湾そして安倍川や藁科川、興津川の清流など豊かな自然に生まれ、自然の恵みの中で本市は発展を遂げてきた。しかしながら、この豊かな自然は、時に地震や豪雨といった災害をもたらし、私たちに大きな恐怖を与えることもある。私たちは、自然と共存し、驚異から身を守り、恩恵を受けていかなければならない。

以下に市民の命を守る『安心をつくる』政策提言をする。

(1) 災害に強いまちづくり

地震、津波対策とともに、土砂災害や豪雨に対する対策など、自然災害に対応したハード整備とともに、自助・共助・近助など地域コミュニティ、防災教育などの向上によるソフト対策を進める。

- ① 東日本大震災の状況を踏まえた新たな地域防災計画を早期に立ち上げる
- ② アセットマネジメント方式で社会インフラの総点検と早急な整備を推進する
- ③ 広域避難場所・津波避難ビル・津波避難タワー・避難路の設置等の津波対策など推進する。(津波避難場所の確保として民間事業者への協力要請と助成制度拡充)
- ④ 公共施設の耐震化と長寿命化を早急に進める
(IS値1.0以下の教育施設の早急な耐震化対策、非構造部材の耐震化推進)
- ⑤ 第2期「浸水対策推進プラン」とゲリラ豪雨対策を積極的に推進する
- ⑥ 土砂災害への対策を推進する
- ⑦ 女性・弱者の視点での防災対策を充実させる
- ⑧ 被災者支援システムを早急に導入する
- ⑨ BCP(事業継続計画)の推進
(行政のBCP策定と民間事業者へのBCP策定支援)
- ⑩ 自主防災活動における支援体制の強化を図る
(災害対応力の地域格差の解消、HUG・DIGの定着推進)
- ⑪ 災害時要援護者避難支援プランの着実な推進をはかる
- ⑫ 家庭・学校・地域で命を守る「防災教育」の徹底推進
- ⑬ 原子力災害対策の強化

(2) 環境にやさしいまちづくり

原発に頼らないエネルギー対策へ向け、自然エネルギーの導入、省エネ対策の促進など、持続可能性をキーワードに、新しいエネルギー社会を創造する。

- ① 本市のエネルギー政策を立案し、具体的な実施計画を策定、実施する
- ② 公共施設への新エネルギーの利活用と省エネ化を推進する
(LED・スマートメータで見える化)
- ③ 電気自動車などエコカーの導入を推進する
- ④ 市民及び事業所への太陽光発電・風力発電等の新エネルギー導入や省電力化推進の
為の助成制度を充実させる
- ⑤ バイオマスタウン・スマートシティー構想を実現する
- ⑥ 地域資源を最大限に活用したエネルギーの地産地消を推進する

(3) 豊かな自然をまもるまちづくり

豊かな自然を育み、それらを用いた戦略により食育や観光交流、エネルギー対策へとつなげていく。また4R運動の推進によりゴミゼロの社会をめざす。

- ① 地球温暖化防止のため、温室効果ガスの削減目標を着実に実現する
- ② 大気汚染、騒音、光化学スモック対策等の都市部の環境向上に努める
- ③ 緑化版エコポイント制度を創設し、低炭素社会の基盤整備を推進する
- ④ 市民の環境意識向上と子どもたちが自然と触れ合える空間の創出を促進する
- ⑤ 「清流の都・静岡」を保全するため、親水環境の整備を推進する
- ⑥ 自然環境に配慮した着実な海岸整備（三保の松原、大浜公園、用宗海岸等）の促進
を図る
- ⑦ 生物多様性オフセットなどを導入し、自然の保全と復元を推進する
- ⑧ 地域バランスを考慮したポケットパーク等の公園設置の推進を図る
- ⑨ 資源循環型の都市システム構築を推進する



2 元気をつくる

本市は、高齢化率が25%を超え少子高齢化が進み、人口減少傾向にある。また、地域の中では、人間関係の希薄化が社会的な孤立を招き、さまざまな課題が急増してきた。一人ひとりを社会の構成員として大切にする、包容力ある共助社会を構築し、地域で支え合うことをキーワードに、生活に密着した高いレベルの福祉サービスを充実させることが必要である。

以下に、誰もが希望を持ち続ける『元気をつくる』政策提言をする。

(1) 子育てしやすいまちづくり

社会で子供たちを育てていくための環境整備、組織改正を行いチャイルドファースト社会を構築していく。

- ① 子育て、保育、教育を統括できる部局を設置する
- ② 放課後児童クラブを全児童対象に拡充する
(地域ボランティア、児童・生徒・学生ボランティア等の利用)
- ③ スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーカー事業の拡充を図る
- ④ 命の尊さを学ぶ教育の推進(いじめ根絶、自殺対策)
- ⑤ 教員の資質向上を図るため、市独自の研修・相談制度の充実を図る
- ⑥ 学級複数担任制や特別支援教育支援員の推進を図る
- ⑦ 学校と地域の連携を強化し、地域で有効に利用できるよう学校開放を推進する
- ⑧ 学校教育で食育の推進(栄養教諭の増員)と公立小学校給食の無償化をする
- ⑨ 教育費負担の軽減策として幼児教育の無償化をする
- ⑩ 幼保連携を推進し待機児童の解消を図る
- ⑪ 保育所、幼稚園、小中学校等、学びの環境(空調や校庭の芝生化など)を整備する
- ⑫ 公共施設・小中学校のバリアフリー化とトイレの洋式化を推進する



(2) 支え合えるまちづくり

高齢者・障害者が住みやすいまちづくりを目指し、バリアフリー化や介護保険制度などを充実させるとともに高齢者・障害者が自立できるよう地域で支えていく仕組みづくりを進める。

- ① 介護ボランティアなどに参加した高齢者の介護保険料を軽減する仕組みをつくる
(お元気ポイント制など)
- ② 障害者支援事業の充実を図る(発達障害への支援拡充、障害者就労支援の充実等)
- ③ 高齢者・障害者などが生きがいを持って生きることができる仕組みをつくる
(就労の確保・ボランティアの推進等)
- ④ うつ病や不安障がい、ひきこもりなどに対する総合的な対策を推進する
(24時間対応の相談窓口を設置する)
- ⑤ 歩いて気楽に相談できる地域に密着した育児や介護など生活の総合的な相談窓口
(ワンストップ化)を整備する
(生涯学習交流館、生涯学習センター、地域包括支援センターなどの有効利用)
- ⑥ 孤独死ゼロへ「命を守るネットワーク」を構築する
- ⑦ 虐待(児童・高齢者・DV)の防止策の強化を図る
- ⑧ 成年後見制度利用に係る行政支援の強化を図る

(3) 健康をまもるまちづくり

増え続ける医療費の抑制のための策をこうじるとともに、医師・看護師の確保など安心して医療を受けることができる社会をめざす。

- ① 予防医学を促進する(健康福祉基本条例へ、予防医学推進の責務等を明記)
- ② 医療費抑制策の推進(ジェネリックの推進、ICTと医療情報データベースの有効活用)
- ③ 医師・看護師不足の解消・救急医療体制の整備を図る
- ④ 高齢者用肺炎球菌ワクチン接種の為に公費助成を行う
- ⑤ 妊婦健診の助成を継続的に行う
- ⑥ がん相談業務と情報発信、普及啓発の拡充をする
(がん教育の推進、がん対策基本条例の策定)
- ⑦ 救急医療体制の強化としてドクターカーの導入をする
- ⑧ 不育症対策を推進する
- ⑨ 不妊治療費助成の柔軟な対応
(不妊治療基金の創設による、治療回数と助成額の選択性の導入)
- ⑩ 受動喫煙防止対策の強化を図る
- ⑪ 総合的な熱中症対策を推進する
- ⑫ 市内に医学部誘致を推進する

3 未来をつくる

本市は、世界的な景気の低迷やデフレなどの影響を受け、地域経済は深刻な状況にあるが、幅広い分野でのものづくりを活かし地域経済が支えられている。また、新東名の開通や中部横断自動車道など、陸・海・空をネットワークとする都市基盤整備が進められ地域活力が期待される。さらに国宝に指定された久能山東照宮をはじめとした数多くの文化遺産や、サッカーなどのスポーツも盛んに行われ、魅力ある地域資源が豊富にある。これらのポテンシャルを最大限活用し、静岡の強みを活かした成長戦略を着実に進めなければならない。

以下に、活気あふれる『未来をつくる』政策提言をする。

(1) 安心して働けるまちづくり

地場産業、中小企業支援を充実するとともに、企業誘致を進め産業の拡大そして、高齢者や若者の就労場所の確保とともに、女性が安心して働ける社会をめざす。

- ① 商店街・中小小売商業者へ総合的な支援を強化する
- ② 中小・零細企業への研究開発の支援を拡充する
- ③ 都市農業の振興と新規就農者等の参入を支援する
- ④ 耕作放棄地・遊休農地の有効利活用をすすめる
- ⑤ 静岡ブランドで6次産業化を拡大する
- ⑥ 産地交流による地産地消モデル地域事業を創出する
- ⑦ 中心市街地・中山間地活性化のための事業推進を図る
- ⑧ 団塊の世代の経験や能力を積極的に地域社会に活かせるまちづくりを推進する
- ⑨ 若者の就業を支援するとともに、高齢者・障害者雇用を促進する
- ⑩ 就労支援窓口の設置（ニート対策、生活保護対策、雇用のミスマッチの解消を図る）
- ⑪ ワークライフバランスの実現に向けた事業を推進する



(2) 誰もがどこでも行けるまちづくり

都市計画道路・生活道路の建設推進や駅舎のバリアフリー化、公共交通の充実をはかり、歩道や自転車道の整備など市民生活に密着した都市基盤整備を進め、コンパクトシティーをめざす。

- ① 老朽化した施設などの計画的な更新と修繕を推進する
- ② 環状道路の整備を促進し、国際貿易港としての清水港とを結んだ、道路一体型物流システムを構築する
- ③ 新東名・中部横断自動車道など高規格幹線道路及びアクセス道路の整備を促進する
- ④ 静岡駅南口・東静岡駅・清水駅周辺の整備を促進し、市民が利用しやすいまちづくりを進める
- ⑤ JR 安倍川駅・草薙駅・興津駅(基本構想策定)等、駅周辺の整備を促進する
- ⑥ 静岡鉄道大坪新駅設置の早期実現を図る
- ⑦ 大谷小鹿地区東名新スマートインターチェンジ設置推進と周辺整備をする
- ⑧ 公共交通空白地域や中山間地などの地域ニーズに合わせた公共交通を確立する(デマンド交通等)
- ⑨ 自転車利用を促進するための環境整備を図る(自転車レーン、駐輪場整備、コミュニティサイクル、モラル向上等総合的な計画の策定)

(3) 人のにぎわうまちづくり

静岡の持つ豊富な文化・歴史などの魅力を内外に発信し観光交流人口増加による活気あふれるまちをつくる。

- ① 本市の歴史的観光資源を有効に活用した観光戦略の着実な推進を図る
- ② シティセールスの強化と静岡空港を生かした観光事業を展開する
- ③ 魅力あふれる日本平山頂の整備を促進する
- ④ サッカーのまち静岡の伝統を生かし、スポーツ振興政策を総合的に推進する
- ⑤ 静岡市国際芸術祭の開催など市民が世界レベルの芸術・文化に触れる機会を作り出す
- ⑥ 教育・文化を基調とした姉妹都市・友好都市との交流を促進し、国際社会に貢献する市民の育成を推進する
- ⑦ 地域文化活動を積極的に支援する
- ⑧ フルマラソン大会の開催



